

ひるば

敷居の低い癒しの場としての病院をめざして

発行 地域連携室

〒651-2403

神戸市西区岩岡町西脇838番地

TEL 078-967-1202(代表)

FAX 078-967-3626

URL <http://www.tohokai.jp/>

Email office@tohokai.jp

2024年
3月号
第172号



作業療法ご案内

「Well-being」～より豊かに、より自分らしく、いきいきと～

私たち作業療法士は、このような希望がある方に支援を提供しています。

- 生活リズムを整えたい
- 気分の浮き沈みを安定させたい
- 休息を上手にとる方法を見つけたい
- 人と上手につき合う方法を身に付けたい
- 社会生活に必要な技術を身につけたい
- グループホームや一人暮らしにチャレンジしたい

※外来(通院)作業療法も利用できます

最初は「どんなことをするんだろう?」と不安でしたが、様々なプログラムがあり、楽しく利用できました。ゆったりと自分のペースで過ごせ、心も体もリラックスすることができます。



初めは緊張していましたが、作業療法士さんが優しく声をかけてくださり、今では困った時に気軽に相談できる存在です。OT室にはたくさんの物があり、病院にこのような場所があることに驚きました。



支援内容の一例

- ・創作活動や余暇活動
- ・クライシスプランの作成や各種コミュニケーションプログラム(意思表示ゲーム、SST、SCIT など)
- ・外出練習、施設や作業所見学同行
- ・各種疾病教育など

作業療法では、個人の状態に合わせて、上記の活動を実施します。充実した地域生活に戻ることができるよう、一人ひとりに寄り添った支援を行っています。また、地域での生活を見据え、他機関とも細やかに連携しています。

訪問看護ステーションクローバー / 精神科デイケアセンター / 就労移行支援事業所 Small Steps / 就労継続支援 B 型事業所 Amu / 相談支援事業所 栞



私らしい生活を
送りたい方、
同じような希望が
ある方、ぜひ一度
ご相談ください。
見学からでも
大歓迎です。



第13回院内学会 2023年12月9日 対面とオンラインのハイブリット開催
「思いやる気持ち ～自分自身にも向けていますか～」

第13回 関西青少年サナトリウム 東峰学会プログラム

＜ 演 題 ＞

- 退院支援活動による患者の変化～退院支援の必要性～
西2階病棟 宮崎 真也
- 急性期治療病棟における作業療法の展開
作業療法室 竹中 菜摘
- 病棟と地域を繋ぐ退院支援プログラム コロナ禍でもできること
北3階病棟 志水 佐知子
- 当院のクロザリル投与状況について
薬局 中谷 幸世
- ～25年引きこもった利用者が通所するまで～
訪問看護 小林 由美
- 精神科デイケアの意義～「私」の居場所～
DC 野島 美晴
- インシデントレポートを活用して暴力回避方法を考える
中央2階病棟 杉本 雅志
- 多飲症患者における飲水コントロールの実際
北3階病棟 矢木 茉莉亜
- 当院における行動制限最小化の動向～適正化について現状と課題を考察する～
行動制限最小化委員会 藤原 祐輔

＜ 特別講演 ＞

- 『ケアをするためのエネルギーチャージ～セルフ・コンパッション～』
埼玉県立保健医療福祉学部看護学科 教授 秋山 美紀 先生

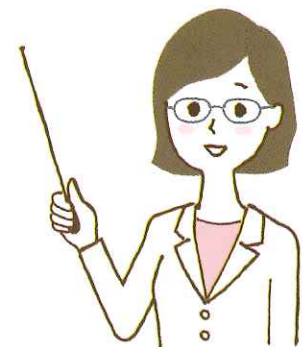
第13回東峰学会

思いやる気持ち
～自分自身にも向けていますか？～



2023年12月9日(土)
OT棟1F・2F会場

9:30～開会 13:40～特別講演
9:50～演題発表 ケアをするためのエネルギーチャージ
セルフ・コンパッション
埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科
教授 秋山 美紀氏



東峰学会を振り返って

2023年12月9日、「思いやる気持ち ～自分自身にも向けていますか～」というテーマで、第13回東峰学会を開催致しました。

日々の業務の中で実践していること、感じたことが今回の演題発表へ表れていたと考えます。当法人の理念である「私たちは精神科医療を入院中心には考えていません」にあるように、スタッフ一人一人が、患者さんのことを思い、地域での生活を大切にしていることが良くわかりました。

特別講演の「ケアをするためのセルフ・コンパッション」では、医療職において、自己に厳しく批判的になる傾向にあるが自分に対する優しさも必要であること、自分への思いやりが他人への思いやりにつながることの大切さを深く学ばせていただきました。

学会を通して、一人一人が専門性を活かしたスキルアップを目指し、また、自分自身も大切にすることでより質の高い医療・福祉を提供できる体制が整うのではないかと感じています。今後も地域のみなさまの期待にお答えできるよう、敷居の低い、癒しの場としての法人をめざしていきます。

法人参与 千葉 雅彦

今回は、「治療抵抗性」統合失調症に対する治療薬『クロザリル』（一般名：クロザピン）について紹介します。

統合失調症は未だ原因がはっきりわかっていない精神疾患のひとつですが、脳内で情報を伝える神経伝達物質のバランスが崩れることで、考えがまとまりにくくなったり、幻覚（他の人には聞こえない声や音が聞こえる幻聴など）や妄想（事実ではないことを強く思い込んでしまう）などの症状を引き起こすと考えられています。現在では薬による治療を続けることで、統合失調症の症状はかなり改善できるようになりました。しかしながら、十分な量の薬による治療を十分な期間続けていても、症状が十分によくならなかったり、薬による副作用が出やすいために薬物治療を続けるのが難しいことがあります（「治療抵抗性」統合失調症と呼ばれます）。

「治療抵抗性」統合失調症に対しては、クロザリルという薬を使うことができます。クロザリルは統合失調症の様々な症状に対して効果が確認されていますが、たとえば、長年悩まされていた辛い幻聴が改善したり、夜間にぐっすり眠れるようになったり、イライラが減って気持ちが安定するなどの効果が期待できます。また、自分を傷つけてしまう行動や、水を飲み過ぎてしまう行動が減ることも期待できます。

一方で、クロザリルには顆粒球減少症や心筋炎など、特に気をつけなければならない副作用が報告されているため、注意も必要です。クロザリルによる治療を安心して受けていただくために、治療開始時には入院が必要です。また、定期的に採血などの検査が必要になります。

クロザリルを使用できる医療機関は限られていますが、当院では2014年2月にクロザリルによる治療を開始し、10年間で50名の患者さんに対して治療を行ってきました。病状が安定し、生活がしやすくなった患者さんは多くいらっしゃいます。クロザリルについて詳しく知りたい方は、お気軽に主治医の先生や当院の薬剤師にご相談ください。

専門薬物療法担当医長

吉田 和史

実際にクロザリルが使えるかどうかは、主治医の先生の判断が必要です



お医者さんを紹介します



さえき りゅう
佐伯 龍先生

出身：愛媛県
趣味：ドライブ



仕事をしていてどんなところに
やりがいを感じますか？

退院は難しいと思われていた患者さんが、退院して元気な姿で外来受診された時に「良かったな」としみじみ感じます。

今後していきたいことは？

患者さんが家庭や地域で安心して生活していけるよう、お手伝いのできればと願っています。

みなさんに一言どうぞ

これからもどうぞよろしくをお願いします。

外来担当医のご案内

※4月より変更予定

外来再診担当医 受付時間 午前 8:50 ~ 12:00 午後 13:00 ~ 16:30

診察時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:15~12:00	狩場 9:40~	鬼頭	内藤	瀬川	佐伯	当番医
午後診 13:00~16:50	大崎	西村	岡本	吉田	頼 橋本	—

初診外来・入院 担当医

曜日別下記に下記の常勤医師を中心に、上記の外来再診担当医以外の医師が診察します（順不同）※変更となる場合があります

月	火	水	木	金	土
堀本	藤本	大崎	橋本	塚本	当番医①
橋本	吉田	塚本	藤本	堀本	当番医②
岡本	内藤	頼	狩場	狩場	当番医③
佐伯	橋本	藤本	塚本	大崎	
吉田	頼	鬼頭	佐伯	岡本	

専門外来担当医のご案内

- ☆ < 児童思春期外来 > 毎週月曜午後 **完全予約制** (担当：内藤医師)
- ☆ < 発達障害専門外来 > 第3金曜午後（月1回） **完全予約制** (担当：上月医師)
- ☆ < 高齢者外来 > 毎週火曜午後 **完全予約制** (担当：阪井医師)

編集後記

健康づくりに太極拳をしています。春の日差し、風を感じながら公園の木陰でストレッチ、太極拳をするのは最高に気分がいいです。新年度に向けてまず準備、一呼吸おいて肩の力を抜いて物事に取り組んでいきたいと思っています。今回、広報委員に初めて参加させて頂きました。一人でも多くの方にこのひろばを届けたいと思います。

(地域連携室：岡本知世子)

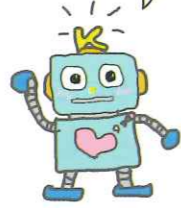


さえき りゅう
佐伯 龍先生

出身：愛媛県
趣味：ドライブ

お医者さんを紹介します

頼れる
穏やか
安心感



仕事をしていてどんなところに
やりがいを感じますか？

退院は難しいと思われていた患者さんが、
退院して元気な姿で外来受診された時に
「良かったな」としみじみ感じます。

今後していきたいことは？

患者さんが家庭や地域で安心して生活してい
かれるよう、お手伝いができればと願ってい
ます。

みなさんに一言どうぞ

これからもどうぞよろしくをお願いします。

外来担当医のご案内

※4月より変更予定

外来再診担当医 受付時間 午前 8:50 ~ 12:00 午後 13:00 ~ 16:30

診察時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:15~12:00	狩場 9:40~	鬼頭	内藤	瀬川	佐伯	当番医
午後診 13:00~16:50	大崎	西村	岡本	吉田	頼 橋本	—

初診外来・入院 担当医 曜日別に下記の常勤医師を中心に、上記の外来再診担当医以外の医師が
診察します（順不同）※変更となる場合があります

月	火	水	木	金	土
堀本	藤本	大崎	橋本	塚本	当番医①
橋本	吉田	塚本	藤本	堀本	当番医②
岡本	内藤	頼	狩場	狩場	当番医③
佐伯	橋本	藤本	塚本	大崎	
吉田	頼	鬼頭	佐伯	岡本	

専門外来担当医のご案内

- ☆ < 児童思春期外来 > 毎週月曜午後 完全予約制（担当：内藤医師）
- ☆ < 発達障害専門外来 > 第3金曜午後（月1回）完全予約制（担当：上月医師）
- ☆ < 高齢者外来 > 毎週火曜午後 完全予約制（担当：阪井医師）

編集後記

健康づくりに太極拳をしています。春の日差し、風を感じながら公園の木陰でストレッチ、太極拳をするのは最高に気分がいいです。新年度に向けてまず準備、一呼吸おいて肩の力を抜いて物事に取り組んでいきたいと思ひます。今回、広報委員に初めて参加させて頂きました。一人でも多くの方にこのひろばを届けたいと思ひます。

（地域連携室：岡本知世子）

ひろば

敷居の低い 癒しの場としての病院をめざして

発行 地域連携室

〒651-2403

神戸市西区岩岡町西脇838番地

TEL 078-967-1202(代表)

FAX 078-967-3626

URL <http://www.tohokai.jp/>

Email office@tohokai.jp

2024年
3月号
第172号



作業療法ご案内

「Well-being」～より豊かに、より自分らしく、いきいきと～

私たち作業療法士は、このような希望がある方に支援を提供しています。

- 生活リズムを整えたい
- 気分の浮き沈みを安定させたい
- 休息を上手にとる方法を見つけたい
- 人と上手く付き合う方法を身に付けたい
- 社会生活に必要な技術を身につけたい
- グループホームや一人暮らしに
チャレンジしたい

※外来（通院）作業療法も利用できます

最初は「どんなことをするんだろう？」と不安でしたが、
様々なプログラムがあり、楽しく利用できま
した。ゆったりと自分のペースで過ごせ、
心も体もリラックスすることができます。



初めは緊張していましたが、作業療法士さんが優しく
声をかけてくださり、今では困った時に気軽に相談
できる存在です。OT室にはたくさんの物が
あり、病院にこのような場所があることに
驚きました。



支援内容の一例

- ・創作活動や余暇活動
 - ・クライシスプランの作成や各種コミュニケーションプログラム（意思表示ゲーム、SST、SCIT など）
 - ・外出練習、施設や作業所見学同行
 - ・各種疾病教育など
- 作業療法では、個人の状態に合わせて、上記の活動を実施します。充実した地域生活に
戻ることができるよう、一人ひとりに寄り添った支援を行っています。また、地域で
の生活を見据え、他機関とも細やかに連携しています。

訪問看護ステーションクローバー / 精神科デイケアセンター / 就労移行支援事業所 Small Steps /
就労継続支援 B 型事業所 Amu / 相談支援事業所 栞



私らしい生活を
送りたい方、
同じような希望が
ある方、ぜひ一度
ご相談ください。
見学からでも
大歓迎です。



第13回院内学会 2023年12月9日 対面とオンラインのハイブリット開催
「思いやる気持ち ～自分自身にも向けていますか～」

第13回 関西青少年サナトリウム 東峰学会プログラム

演題

- 退院支援活動による患者の変化～退院支援の必要性～
西2階病棟 宮崎 真也
- 急性期治療病棟における作業療法の展開
作業療法室 竹中 菜摘
- 病棟と地域を繋ぐ退院支援プログラム コロナ禍でもできること
北3階病棟 志水 佐知子
- 当院のクロザリル投与状況について
薬局 中谷 幸世
- ～25年引きこもった利用者が通所するまで～
訪問看護 小林 由美
- 精神科デイケアの意義～「私」の居場所～
DC 野島 美晴
- インシデントレポートを活用して暴力回避方法を考える
中央2階病棟 杉本 雅志
- 多飲症患者における飲水コントロールの実際
北3階病棟 矢木 茉莉亜
- 当院における行動制限最小化の動向～適正化について現状と課題を考察する～
行動制限最小化委員会 藤原 祐輔

特別講演

- 「ケアをするためのエネルギーチャージ～セルフ・コンパッション～」
埼玉県立保健医療福祉学部看護学科 教授 秋山 美紀 先生

東峰学会を振り返って

2023年12月9日、「思いやる気持ち ～自分自身にも向けていますか～」というテーマで、第13回東峰学会を開催致しました。

日々の業務の中で実践していること、感じたことが今回の演題発表へ表れていたと考えます。当法人の理念である「私たちは精神科医療を入院中心には考えていません」にあるように、スタッフ一人一人が、患者さんのことを思い、地域での生活を大切にしていることが良くわかりました。

特別講演の「ケアをするためのセルフ・コンパッション」では、医療職において、自己に厳しく批判的になる傾向にあるが自分に対する優しさも必要であること、自分への思いやりが他人への思いやりにつながるこの大切さを深く学ばせていただきました。

学会を通して、一人一人が専門性を活かしたスキルアップを目指し、また、自分自身も大切にすることでより質の高い医療・福祉を提供できる体制が整うのではないかと感じています。今後も地域のみなさまの期待にお答えできるよう、敷居の低い、癒しの場としての法人をめざしていきます。

法人参与 千葉 雅彦

第13回東峰学会
思いやる気持ち
～自分自身にも向けていますか？～



2023年12月9日(土)
OT棟1F・2F会場

9:30～開会 13:40～特別講演
9:50～演題発表 ケアをするためのエネルギーチャージ
セルフ・コンパッション
埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科
教授 秋山 美紀氏



健康一口メモ 「治療抵抗性」統合失調症
コラム 治療薬「クロザリル」について

精神科のお医者さんに
聞きました

今回は、「治療抵抗性」統合失調症に対する治療薬「クロザリル」（一般名：クロザピン）について紹介します。

統合失調症は未だ原因がはっきりわかっていない精神疾患のひとつですが、脳内で情報を伝える神経伝達物質のバランスが崩れることで、考えがまとまらなくなったり、幻覚（他の人には聞こえない声や音が聞こえる幻聴など）や妄想（事実ではないことを強く思い込んでしまう）などの症状を引き起こすと考えられています。現在では薬による治療を続けることで、統合失調症の症状はかなり改善できるようになりました。しかしながら、十分な量の薬による治療を十分な期間続けていても、症状が十分によくならなかったり、薬による副作用が出やすいために薬物治療を続けるのが難しいことがあります（「治療抵抗性」統合失調症と呼ばれます）。

「治療抵抗性」統合失調症に対しては、クロザリルという薬を使うことができます。クロザリルは統合失調症の様々な症状に対して効果が確認されていますが、たとえば、長年悩まされていた辛い幻聴が改善したり、夜間にぐっすり眠れるようになったり、イライラが減って気持ちが安定するなどの効果が期待できます。また、自分を傷つけてしまう行動や、水を飲み過ぎてしまう行動が減ることも期待できます。

一方で、クロザリルには顆粒球減少症や心筋炎など、特に気をつけなければならない副作用が報告されているため、注意が必要です。クロザリルによる治療を安心して受けていただくために、治療開始時には入院が必要です。また、定期的に採血などの検査が必要になります。

クロザリルを使用できる医療機関は限られていますが、当院では2014年2月にクロザリルによる治療を開始し、10年間で50名の患者さんに対して治療を行ってきました。病状が安定し、生活がしやすくなった患者さんは多くいらっしゃいます。クロザリルについて詳しく知りたい方は、お気軽に主治医の先生や当院の薬剤師にご相談ください。

専門薬物療法担当医長

吉田 和史

実際にクロザリルが
使えるかどうかは、
主治医の先生の判断
が必要です

